

平成 29 年度
企画展

池田家文庫絵図展

池田光政と絵図



2017 IKEDAKEBUNKO EZUTEN
IKEDA Mitsumasa and Pictural Maps



岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries



岡山シティミュージアム

和気郡図

池田光政と絵図

平成二十九年度
企画展

池田家文庫絵図展

IKEDA Mitsumasa and Pictural Maps

- 会 期 平成 29 年 11 月 3 日(金・祝)～ 11 月 19 日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 4 階 企画展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づく事業である、この池田家文庫絵図展も本年度で13回目の開催となりました。今回も岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムの主催で、池田光政にかかわりの深い絵図に関する展覧会を行います。

本展覧会は、岡山大学附属図書館で保存管理している、池田家文庫（江戸時代岡山藩の藩政資料等のコレクション）を広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しています。展覧会の主な展示資料は「絵図」類で、この地図資料群は池田家文庫の特徴的な資料でもあります。

毎回、様々なテーマで実施している当展覧会ですが、本年のタイトルは「池田光政と絵図」です。今ではどこでも見られる地図ですが、江戸時代に“絵図”（絵画表現に秀でた地図）を見ることができた人間は一部にとどまりました。その上、絵図の制作に関わった人間となるとごくごく一部でした。江戸時代初期の明君であった備前岡山藩の池田光政という人物はその稀有な人間でした。今回の展示では、池田光政が関わった絵図を紹介することで、彼の藩政に対する姿勢や岡山藩の事情がわかる展示となっています。

この池田家文庫絵図展が、皆様の岡山や日本の歴史理解に役立ち郷土愛を高める助けとなると共に、池田家文庫という地域の共有財産を今後も継承していく契機となることを願ってやみません。

2017年11月3日

岡山大学附属図書館
館長 今津勝紀
岡山シティミュージアム
館長 大野明幸

関連行事

Event

オープニングトーク

日 時 平成 29 年 11 月 3 日(金・祝) 午前 10 時～午前 10 時 30 分
場 所 岡山シティミュージアム 4 階企画展示室
講 師 岡山大学 特命教授 倉地克直氏

講演会「池田光政の時代」

日 時 平成 29 年 11 月 12 日(日) 午後 2 時～午後 4 時
場 所 岡山シティミュージアム 4 階講義室
講 師 岡山大学大学院 社会文化科学研究科 准教授 三宅正浩氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが平成 29 年 11 月 3 日(金・祝)～11 月 19 日(日)まで開催する「企画展 池田家文庫絵図展『池田光政と絵図』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は図版番号、資料名、池田家文庫整理番号、員数、年代、法量(タテ×ヨコ、cm)の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学特命教授 倉地克直が執筆した。編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

「池田光政と絵図」解説	1
出展資料解説	5
出展資料目録	26
池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	27

はじめに

現在、わたしたちの身の回りにはたくさんの地図がある。それをわたしたちは何気なく使っている。地図を見るときに、それが作られた意図を考へることもない。

江戸時代は「地図の時代」と言われる。世界や日本列島の各地を対象とした無数の地図が作られた。手書きのものもあれば刷本すりほんもあり、墨単色から極彩色のものまである。こうした「古地図」は絵画的表現が卓越しているから、一般に「絵図」えずとも呼ばれる。

しかし、すべての人が多様な絵図に触れられたわけではない。それができたのは武士階級の主立おもだった人に限られていただろう。そのなかでも意識的に絵図と「関わった」人はさらに限られていたに違いない。池田光政というひとは、そんな稀有な人物だと思われる。

池田家文庫の絵図には、藩主そぼの側に置かれていた絵図も少なくない。その一部を紹介しながら、池田光政と絵図の関わりについて考へてみたい。

鳥取時代

池田光政は慶長14年(1609)4月岡山城に生まれた。父は池田利隆としたか、母は榊原康政やすまさの女鶴子むすめ(福照院)、その長男であった。利隆は姫路城主池田輝政てるまさの嫡男で、弟忠継ただつぐに代わって備前国の統治を行うために岡山に居た。

慶長18年(1613)1月輝政が亡くなると利隆が播磨の遺領のうち42万石を相続したが、元和2年(1616)6月に急死する。光政は8歳でその跡を継ぐ。しかし、幼少を理由に翌元和3年(1617)因幡・伯耆いなば ほうき両国(現在の鳥取県)32万石へ転封になった。

光政以前の鳥取には、6万石の大名池田長幸ながよしが居た。そこへ42万石相当の家臣団を引き連れて入部したのだから、城郭も城下町もまったく手狭であった。元和4年(1618)3月光政は初めて鳥取城に入る。城下町の拡張は急務であった。

翌元和5年(1619)光政は上洛していた将軍徳川秀忠ひでただのもとに伺候し、直接鳥取城下町の拡張計画を説明した。そのとき光政が示した絵図が、参考1「因幡国鳥取絵図」である。この図には城下の町割りの計画が貼紙で示されており、図の上方には書込があつて、同年9月6日に「公方様」くぼうさま(将軍・秀忠)に見せたことが分かる。現存するものうちではこの絵図が、光政と絵図との関わりを示す最初のものである。

岡山城下町

時は少し戻るが、岡山城主となっていた池田忠継は元和元年(1615)2月に亡くなる。その跡に岡山城へ入ったのは弟の池田忠雄ただおであった。しかし、忠雄も寛永9年(1632)4月に31歳の若さで亡くなる。このとき忠雄の嫡子勝五郎(後の光仲みつなか)は3歳と幼少であったため、光政との間で一族同士の国替えが行われ、光政は生まれた岡山城に戻ることになった。光政が引き継いだ領知は、備前一国28万200石、備中国6郡(のちに5郡)のうち3万5000石、合わせて31万5200石であった。

寛永9年8月光政は岡山城に入る。家中の者たちも、同月中にはすべて岡山に移った。光政

はただちに家中の知行割りと屋敷割りに着手する。このとき屋敷割りに使われたのが、参考3「岡山古図」である。この図は元は忠雄が元和初年(1610年代後半)に屋敷割りに使った絵図で、それを光政が引き継いだ。そのため、絵図の地の部分には忠雄の家臣の名前が書かれており、その上や横に光政家臣の名前が紙に書かれて貼られている。

この図から当時の岡山城下町の様子が知られる。城下町の外郭はできあがっているものの、武家地以外の町人地や寺地などは未整備であった。こうした城下町の整備も光政の仕事の一つであった。その努力の結果を示すのが、3～6「備前国岡山城下図」および4枚を合成した参考4「備前国岡山城下図」である。この城下図は慶安年間(1648～52)に作られたと考えられているが、町名のある町は16町から58町へ、寺院は12か寺から40か寺に増加している。光政による城下町整備の状況がうかがえる。

島原天草一揆

光政が岡山に移って5年後の寛永14年(1637)10月島原天草一揆(「島原の乱」)が起きる。この一揆は、領主の苛政^{かせい}に苦しめられた農民たちがかつてのキリスト教信仰を取り戻して結集し、蜂起したもので、全国の大名や領主たちを震撼^{しんかん}させた大事件であった。光政はいち早く家臣の丹羽次郎右衛門^{にわじろうゑもん}らを現地に派遣し、独自に情報収集に努めている。江戸に居た光政のもとに丹羽らからの書状や絵図が届けられた。7～9「島原戦地之図」には「上様へ上り候絵図のうつし」などと書いた付紙があり、光政が將軍家光と戦地の情報を共有していた様子^{うかがえ}がうかがえる。

原城に立て籠もった一揆勢の意気は盛んで、九州の大名の軍勢を率いた幕府軍は、攻略に苦しんだ。もしかすると出陣ということになるかもしれないと考えた光政は、翌寛永15年(1638)2月急いで江戸から岡山に帰る。しかし、その直後に原城は落城したため、実際に出陣することはなかった。帰国した家臣から戦況の状況を聞いた光政は、一揆の凄まじさを実感したに違いない。この後民政に力を集中するようになる。

寛永15年国絵図

家光は寛永10年(1633)に全国に巡見使^{じゅんけんし}を派遣し、各地の政治を監察するとともに、国絵図を徴収した。これが「寛永10年巡見使国絵図」と呼ばれるものである。しかし、この国絵図は簡略に過ぎたため、川村博忠によれば、島原一揆の際には使節の派遣などの役に立たなかった。そのため、一揆鎮圧の直後に、中国筋の国々に対して改めて国絵図の改定と提出を求めたという。これが「寛永15年国絵図」と呼ばれるものである。

池田家文庫の11「備前国九郡絵図」・参考5「備前国九郡絵図」・参考6「備中国絵図」は、いずれも「寛永15年国絵図」と関連の深いものである。とくに参考5・6の絵図は、極彩色の豪華な仕様で、幕府へ提出した国絵図の「控図^{ひかえず}」というよりは、「記念図」とでも呼んだほうがよいような立派なものである。11の絵図は光政が幕府に差し出した「伺図^{うかがいず}」と思われるが、これら3枚の絵図の作成に光政が深く関わったことは間違いないだろう。

正保国絵図

正保元年(1644)12月幕府は全国の大名に対して国絵図と城絵図の作成を命じた。今回の国

絵図作成は、縮尺など統一的な基準を示し、全国一律の仕様で作成を命じる画期的なものであった。岡山藩は備前国と備中国の担当を命じられた。国絵図と一緒に提出されたのが、参考7「備前国岡山城絵図」と12「備前国九郡之帳」・13「備中国十一郡帳」である。のちには図上の交通情報だけを一冊にまとめた14「備前備中道筋并灘道船路記」も作成・提出している。

備前国は一国すべてを池田家が領有しているので問題はないが、備中国は幕府領や大名・旗本の領地などが混在しており、その作成は容易ではなかった。15「備中国之内上房郡川上郡阿賀郡哲多郡四郡之絵図」(水谷伊勢守殿より参)・16「都宇郡之図」(戸川土佐殿より参)・17「加陽郡絵図」(木下淡路殿より参)・18「下道郡之絵図」(伊東甚太郎殿より参)の4枚は、参考8「備中国絵図」を作るために、備中国の大名から提出させたものである。この4枚の絵図がカバーする7郡以外の4郡については、岡山藩が調製にあたったと思われる。そして、そのすべてを光政自身が手に取ったことが、畠紙(絵図面の余白部分)への書込から確認できる。

この4枚の絵図は、純然たる郡図である。各図を作成した大名は、自領以外の村についても石高と領主名を調査して郡図を作成しているのである。もちろんこれは、光政からの要請にもとづくものだろう。光政は、備中国内の大名に指示して「公儀」の一員として国郡制にもとづく国絵図作成への参画を求めたのである。そこに光政の高い政治性を見ることができよう。

児島塩飽島公事

正保3年(1646)7月児島と塩飽の間で島の所属をめぐる争論が起きた。ことの発端は漁場をめぐる争いだったと思われるが、それに関わって漁場周辺の島の帰属が問題になったのだろう。児島は備前国、塩飽は讃岐国だから、問題は国境に関わることでもあった。この争論は児島方が幕府の上方郡代である小堀政一に訴え、小堀が両者を呼んで審理を行っている。

両者の主張を聞いた小堀は、児島方に理があるという裁定をくだし、それを光政に知らせた。その書状が「池田光政日記」(19「芳烈公手留」)に写されている。児島方を後押しする岡山藩は、できあがったばかりの正保国絵図を証拠として示した。そこでは問題の六口島・釜島・松島に「備前ノ内」と注記されていた(参考9「備前国絵図」〔部分〕)。それが児島方の主張と一致したので、児島方理分の裁定となったのだ。

国絵図を提出した岡山藩は、光政を含めて、それが証拠となることを承知していたに違いない。作られたばかりの国絵図が活用され、実際に役に立った。光政としては本懐を遂げたというところだろう。

岡山城の石垣修理

岡山城および岡山城下町は、旭川の洪水によってたびたび大きな被害を受けた。そのたびに光政は復興に奔走している。

城郭や石垣などの修理は、幕府の許可を受けて行うことが武家諸法度によって決められていた。修復願には、細かな工事内容を記した絵図が必ず添えられた。その元になったのは正保の城絵図(参考7)である。

岡山の洪水としてよく知られているのは、承応3年(1654)7月の大洪水である。このとき岡山城も大きな被害を受けた。その後の石垣修理や堀浚えに関する史料(20～23)が残されている。

万治4年の郡図

寛永末年以来光政は3度の大きな「改革」を行い、そのたゆまぬ努力から「明君」と評されている。

光政の政治手法としては、おおまかに次のような特徴をあげることができる。

一つは、常に家中と領民の生活の両立をめざしたが、「危機」の状況では領民の救済を優先させることもあった。しかし、その救済が民の驕りにつながらないように、原則に厳しく対処することも忘れなかった。

二つは、「改革」を進めるためにはシステムより「ひと」を重視し、現場に自分の息の掛かった役人を直接投入した。村役人にも富裕な者よりは「正路」（道理に則って公平）で村人の信頼ある人物を選ばせた。そうした「ひと」の養成のために、学習や教育を重視し、模範となる者を褒賞した。

三つは、藩政の隅々にまでみずから目配りし、みずから判断して行動する「働く藩主」であった。みずからの政治を反省するために、多数の書付を残している。

こうした光政政治の特徴を遺憾なく示しているのが、万治4年＝寛文元年（1661）に作成された郡図である。これらの郡図は、郡内の行政に必要な情報を絵図に描き、郡奉行から光政の手元に出されたものと思われる。そこには郡内の統治に有用な人物が書き上げられているのも大きな特徴である。こうした絵図を広げながら役人からの報告を聞き、藩内の様子に目配りしていたに違いない。

ここでは万治4年の郡図と思われる9枚のうち、28「岩生郡図」・29「上東郡図」・30「和気郡図」・31「児島郡図」の4枚を展示している。

おわりに

光政は寛文12年（1672）6月に隠居し、家督を嫡男綱政に譲っている。鳥取藩主・岡山藩主としての生活は55年に及ぶが、そのときどきに絵図と意識的に関わる機会が何度かあった。その様子を簡単に紹介した。ここで述べた以外にも、光政と絵図との関わりは、深く、広いだろう。その探求の入口になればと思う。

〔参考文献〕

川村博忠『江戸幕府撰国絵図の研究』古今書院、1984年

倉地克直『池田光政』ミネルヴァ書房、2012年

岡山大学 特命教授 倉地克直

1 とっとりじょうず
鳥取城図

T3-268 1枚
文化7年(1810)
82.4 × 80.2

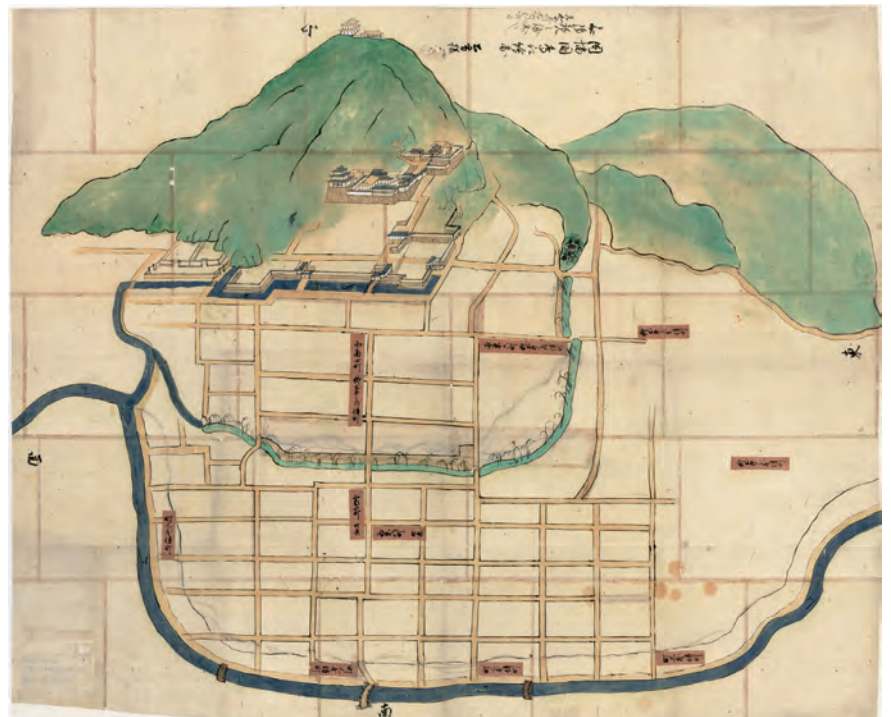
軍学学習のための城図。袋上書から、池田^{なりてる}斉輝のために作成されたものと思われる。光政入部以前6万石時代の鳥取城下町の様子が描かれている。柳土手が城下町を画する惣構えになっていて、その南に屋敷地は広がっていない。袋川も真直ぐに千代川に注いでいる。



参考1 いなばのくにとっとりえず
因幡国鳥取絵図【複製】

T3-3 1枚
元和5年(1619)9月6日
136.0 × 165.0

裏面に「因州鳥取城之図／元和五年九月六日將軍家雷覽之図」とあり、余白には「因幡国鳥取絵図／公方様へ□□□被成御覽候絵図也／元和五年九月六日」と書かれている。柳土手の南に城下町を拡張し、新しい惣構えとして袋川を付け替える計画を示している。付紙から、柳土手の内側は武家地、その外が町人地、袋川に沿って侍町を設ける、という計画であることが分かる。光政はこの図を上洛中の將軍秀忠に直接見せて了解を求めた。



2 まつだいらしんたろうあてとしよりしゅうれんしょほうしよ
松平新太郎宛年寄衆連署奉書

C9-52-1 1通
〔元和5年(1619)〕9月16日
40.5 × 57.6

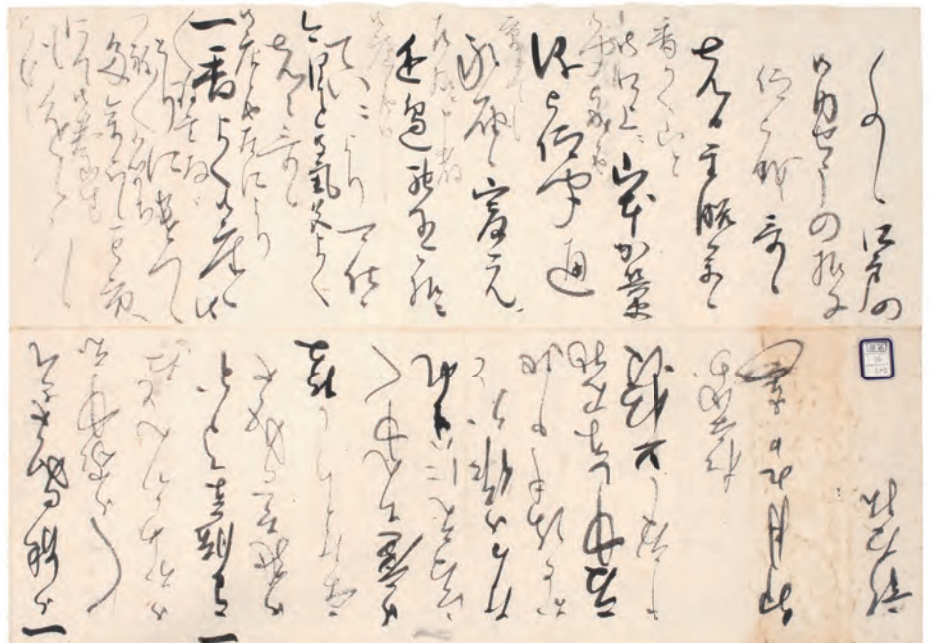
差出人は安藤^{つしま}対馬守^{しげのぶ}重信・土井^{おおい}大炊助^{としかつ}利勝・本多^{こうづけ}上野守^{まさすみ}正純・酒井^{ただよ}雅楽頭^た忠世、宛名は松平新太郎（池田光政）。大坂城の石垣普請の御手伝いを命じる徳川幕府年寄衆の奉書。幕府による大坂城建設は元和6年(1620)に始められるので、その前年と推定した。とすれば、鳥取城拡張計画の許可を求めたのと同じく、光政は上洛中であった。



参考2 まつだいらしんたろうあてまつだいらくないしよじょう
松平新太郎宛松平宮内書状
【複製】

C9-38 1通
年未詳4月9日
37.0 × 52.7

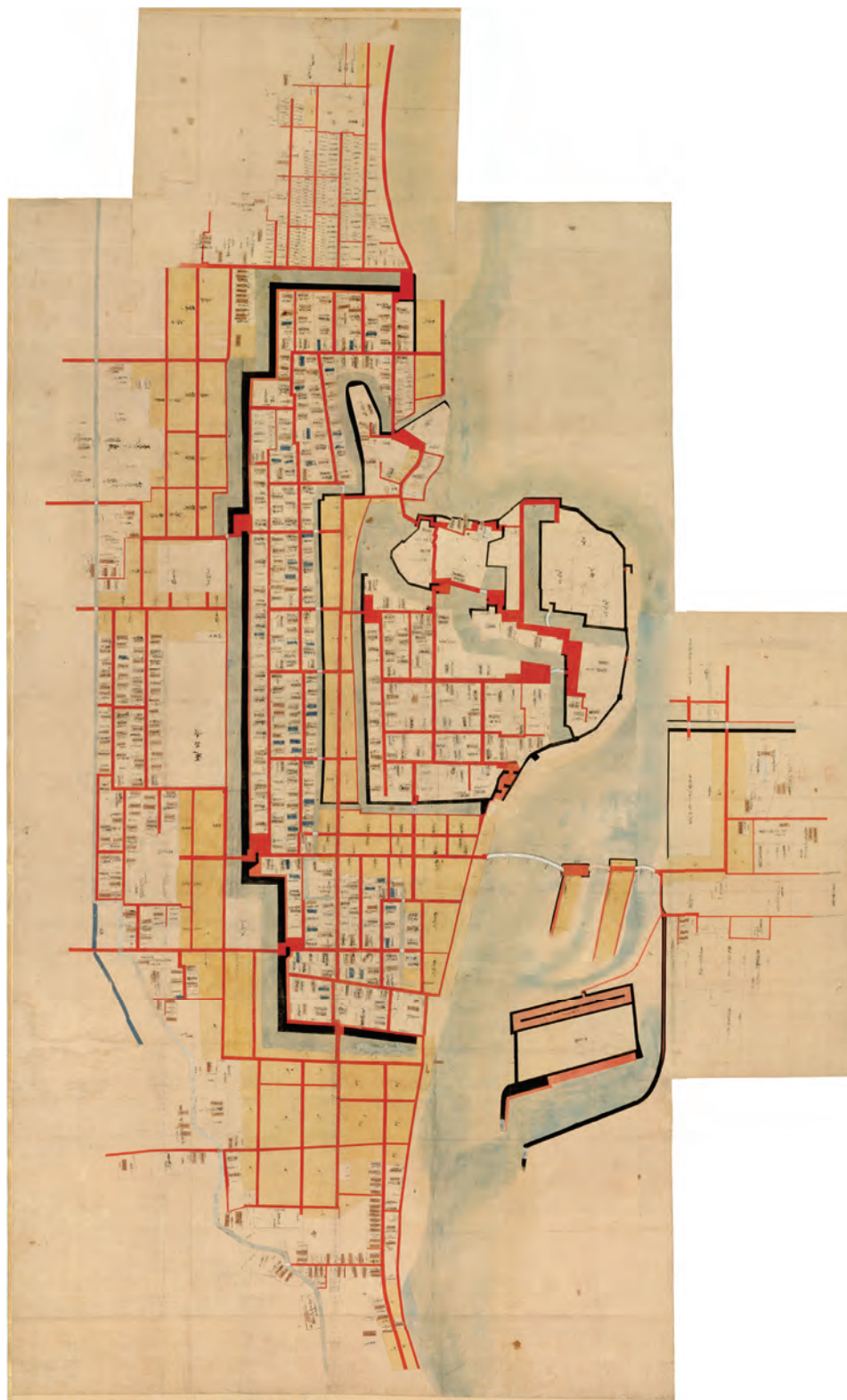
差出人は松平宮内（池田^{ただお}忠雄）、宛名は松平新太郎（池田光政）。光政が江戸のこまごまとした様子を知らせたことに対する忠雄の返書。忠雄は領地の岡山城に居たと思われる。香や能、庭の亭などが話題になっており、ふたりの親密な様子がうかがえる。



参考3 おかやまこず 岡山古図【複製】

T6-5 1 鋪
〔寛永9年(1632)〕
515.4 × 309.0

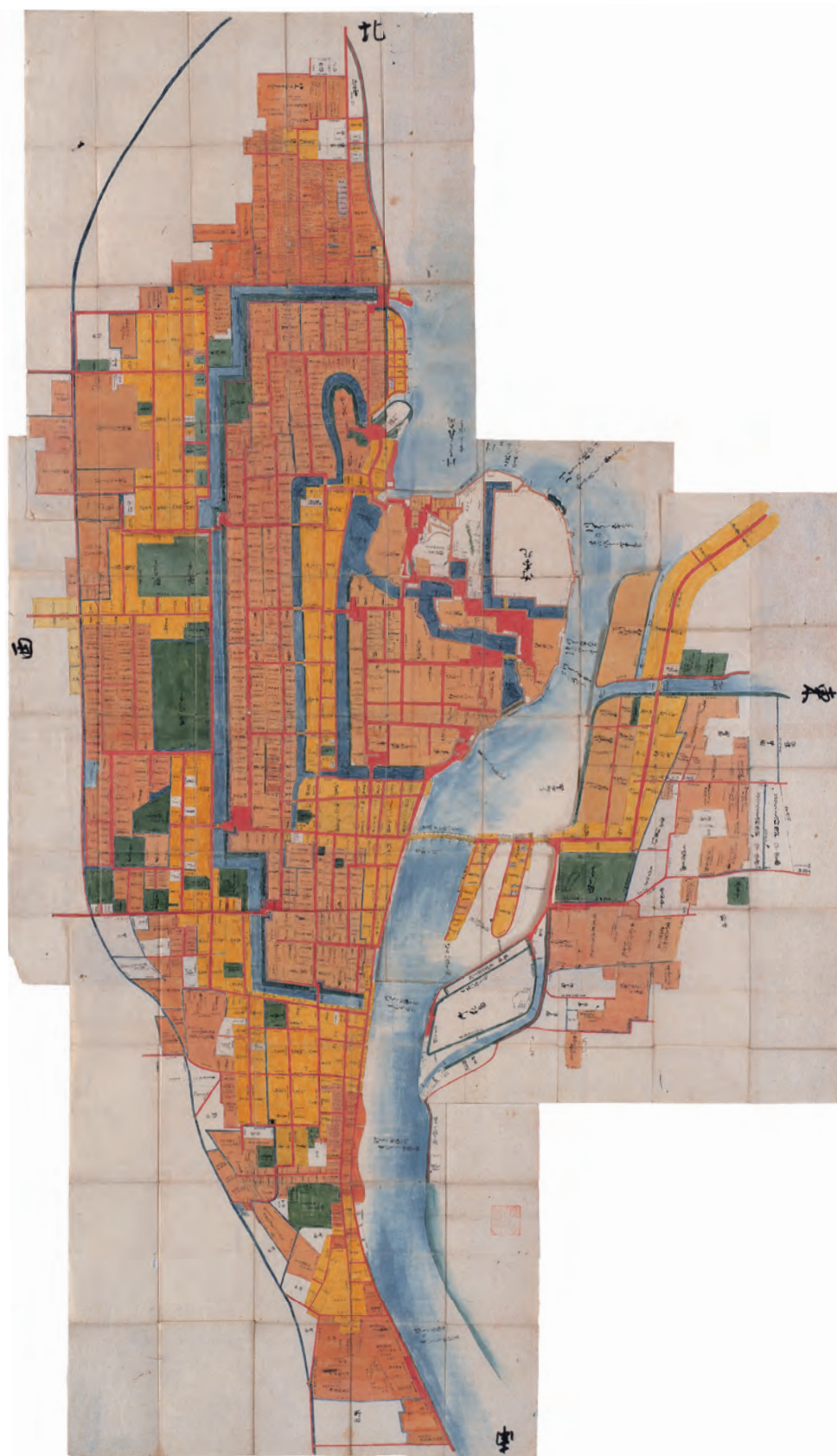
寛永9年(1632)の岡山転封のとき、忠雄時代の屋敷割り図を引き継いで、光政が自分の家臣の屋敷割りに使った岡山城下町図。忠雄時代の家臣の名前の上や横に、貼紙で新しい屋敷主の名前を示している。武家地はほぼ埋まっているが、「町」や「寺」とだけ書かれた地区も多く、町人地や寺地はまだ未整備であることが分かる。



参考4 びぜんのくにおかやまじょうかず
〔備前国岡山城下図〕
【合成複製】

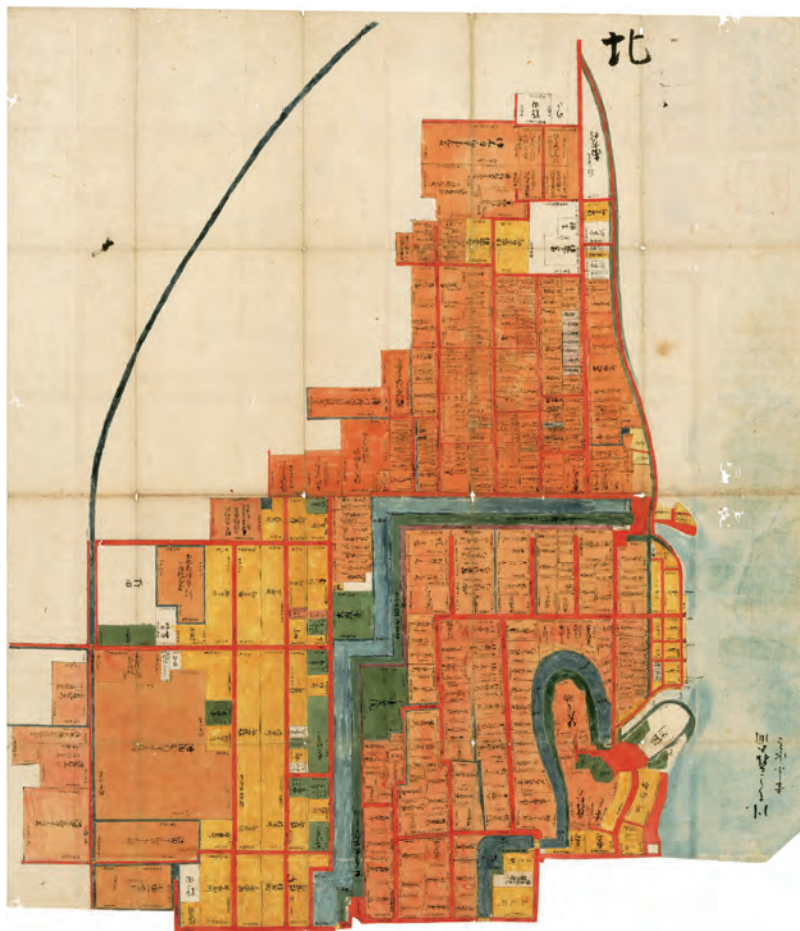
T6-8~11
慶安年間（1648-52）

岡山城下を4分割して示した絵図。慶安年間（1648-52）のものと考えられている。参考3と比べてみると、光政時代の前期に岡山城下町の整備が進んだ様子がうかがえる。



3 びぜんのくにおかやまじょうかず
備前国岡山城下図
(川西・北)

T6-11 1 鋪
慶安年間 (1648-52)
79.6 × 68.6



4 びぜんのくにおかやまじょうかず
備前国岡山城下図
(川西・中)

T6-10 1 鋪
慶安年間 (1648-52)
84.6 × 102.1





5 びぜんのかにおかやまじょうかず
備前国岡山城下図 (川西・南)

T6-9 1 鋪
慶安年間 (1648-52)
82.4 × 72.2

6 びぜんのかにおかやまじょうかず
備前国岡山城下図 (川東)

T6-8 1 鋪
慶安年間 (1648-52)
94.7 × 65.0



7 しまばらせんちのず 島原戦地之図

T12-39 1枚
年月日未詳
155.8 × 159.2

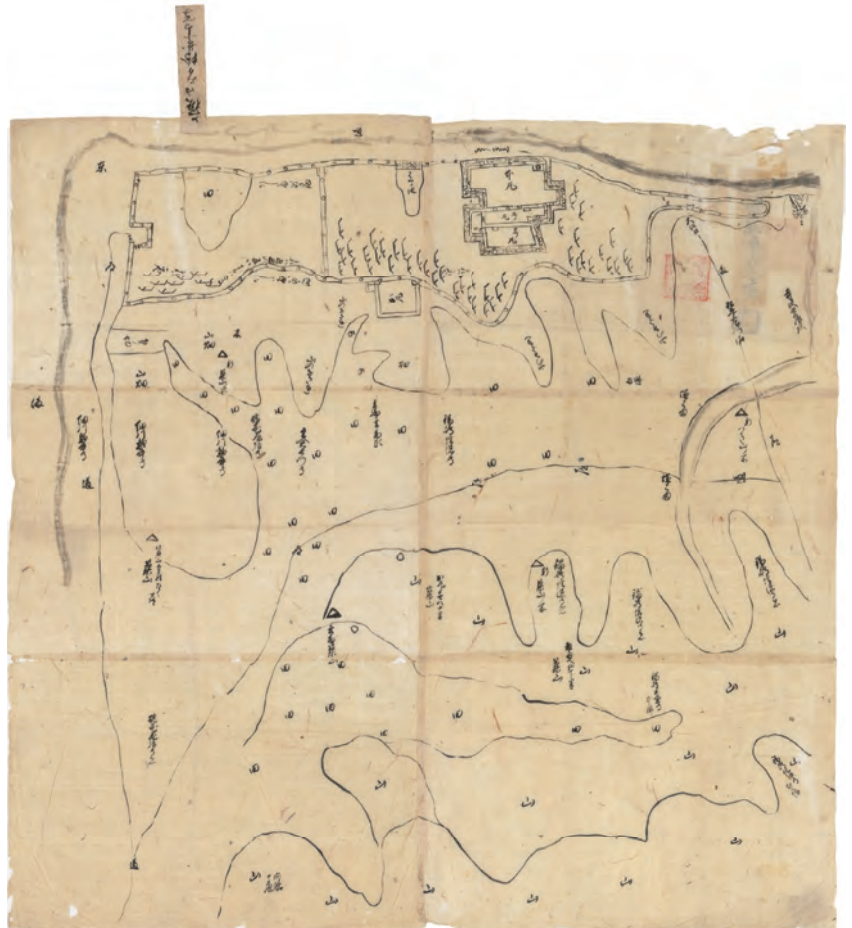
島原半島全体と周辺地域を描いた図。余白部分に「上様へ上り候絵図のうつし」と書かれた貼紙があり、光政が派遣した使者がもたらした絵図を将軍に差し出したものの写しか。もしくは、将軍家光の手元に届けられた絵図を光政が特別に許されて写したものかもしれない。「有馬南の古城」とあるのが一揆勢が立て籠もる原城。「天草之内 大やな」(大矢野島)には、「寺沢殿領分きりしたん貴理志端共此所より起初ル」と書かれている。



8 ひぜんしまばらせんちのず 肥前島原戦地之図

T12-37 1枚
年月日未詳
84.0 × 85.2

原城攻めの陣取りを描いた図。「上様江上り絵図書写」と書かれた付紙があり、7の絵図と同様の性格のものと思われる。寺沢・有馬・鍋島・橘花(立花)・細川など、九州の諸大名の名が見える。



9 ひぜんしまばらせんちのず
肥前島原戦地之図

T12-40 1枚
年月日未詳
111.4 × 117.6

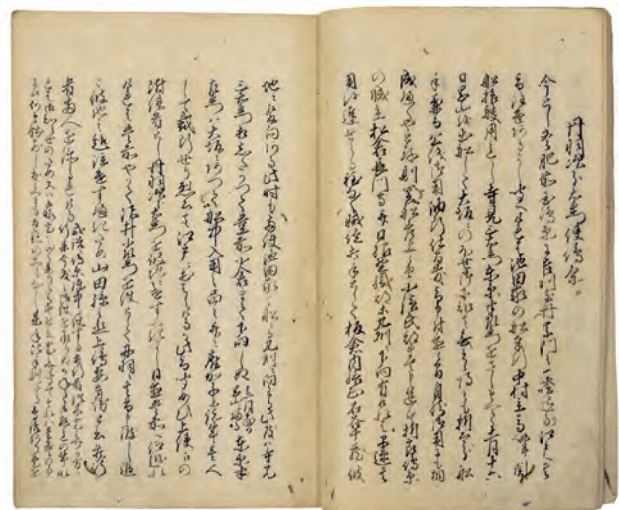
原城攻撃の様子を描いた図。築山・せいろう（井楼）・柵・金堀入など、城攻めの工作が細かく描かれている。朱線は、最終的な突入ルートを示しているのだろう。沖に浮かぶ黒く塗られた船はオランダ船か。7・8の絵図のような貼紙・付紙はなく、それより後の戦況を示す絵図である。



10 いけだけりれき
池田家履歴・六

A8-57 1冊
年月日未詳
23.5 × 16.2

池田家歴代の重要事件を編年体で書いた「池田家履歴略記」の一本で、最も原形に近いと考えられているもの。全26冊。著者は岡山藩士の斎藤一興。第六冊のなかの寛永14年(1637)の項。光政は、幕府上使板倉重昌や石谷貞清の付使として家臣の丹羽次郎右衛門らを派遣しており、丹羽は現地の状況を知らせる書状と絵図を光政に送ったことが記されている。その絵図が7・8の絵図かもしれない。



11 びぜんのかくにきゅうぐんえず
備前国九郡絵図

T1-16 1枚
〔寛永15年(1638)カ〕
188.8 × 188.6

いわゆる「寛永15年国絵図」の一つ。参考5と同じ形・同じ内容のものだが、淡彩で村高の表記が欠けている。裏面に「松平新太郎より参候
(後筆)
「ヲ七兵衛殿より来候」備前国絵図」と書き込まれており、光政が幕府に提出した何図かかもしれない。「後筆」とは後日誰かが書き加えたもの。



参考5 びぜんのかくにきゅうぐんえず
備前国九郡絵図

【複製】

T1-14 1鋪
〔寛永15年(1638)カ〕
193.4 × 188.5

かんえいこず
「寛永古図」として伝えられるもので、参考6備中国絵図とともに寛永15年頃に作られたと考えられる。村形を郡別に色分けするだけでなく、郡の地の部分も色分けされ、きわめてカラフルで、郡境の線や紺青の上の文字が金泥で書かれるなど、その豪華さは他に例を見ないものである。原図を60/100に縮小した複製を展示している。



参考6

びつちゅうのくにえず 備中国絵図【複製】

T1-30 1 鋪
〔寛永15年(1638)カ〕
190.0 × 189.2

参考5と同じ仕様で作られた備中国の絵図。罫紙部分に領主名と知行高が記されているが、そこに「山崎甲斐守さきち先知なりわとあることから、成羽の山崎家治が転封になり、水谷勝隆が入部する間の寛永15年頃に作成されたと考えられている。原図を60/100に縮小した複製を展示している。



参考7

びぜんのかにかやまじょうえず 備前国岡山城絵図【複製】

T3-84
〔正保2年(1645)〕
242.4 × 196.7

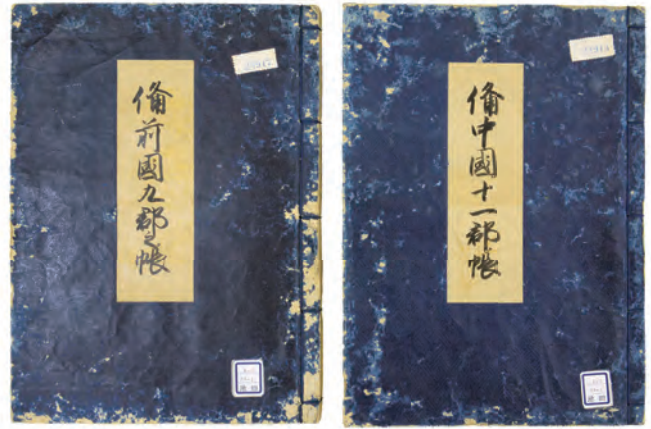
正保国絵図とともに幕府に提出された城絵図。天守台の大きさ、丸の内の櫓や門の配置、石垣の高さや敷地の広さ、堀の幅や深さなどが克明に記されている。城下町内の武家地・町家地・寺地の区別、道の長さなども書き込まれている。旭川の洲の「御花島」には台徳院（徳川秀忠）御霊屋が見える。城絵図は、軍事情報の掌握が重視された正保度のみ命じられたものである。



12 備前国九郡之帳

びぜんのかくにきゅうぐんのちょう

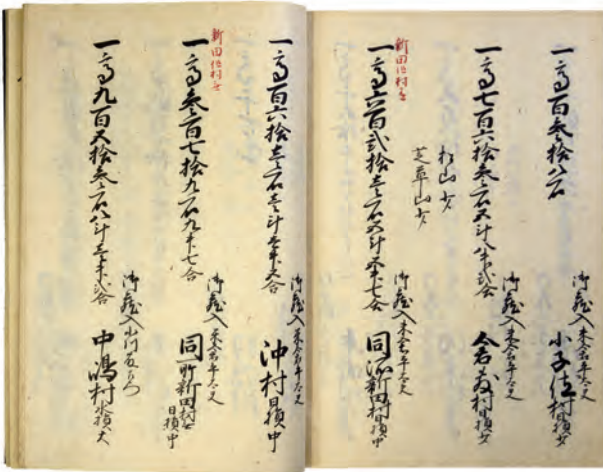
B3-35 2冊
〔正保3年(1646)〕
30.4 × 22.5



13 備中国十一郡帳

びつちゅうのかくにじゅういちぐんちょう

B3-34 2冊
〔正保3年(1646)〕
30.4 × 22.5



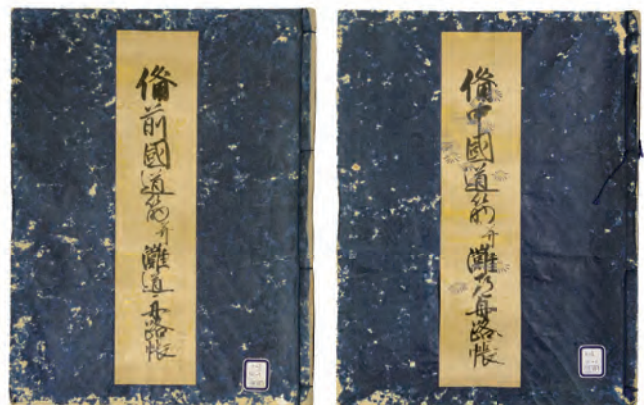
12・13は幕府の命により作成され、正保2年(1645)に国絵図とともに提出された郷帳の控え。村名の難字に朱書きで仮名を付け、翌年再提出した。村名とともに、枝村名、水損・日損などの村況、村付きの林や藪なども書き上げられている。2組4冊が一つの桐箱に入れられており、箱の上書に「備前備中両国古高帳」とある。

14 備前備中道筋并灘道船路記

びぜんびつちゅうみちすじならびになだみちふなじき

N1-98 2冊
正保4年(1647)11月
31.2 × 23.6

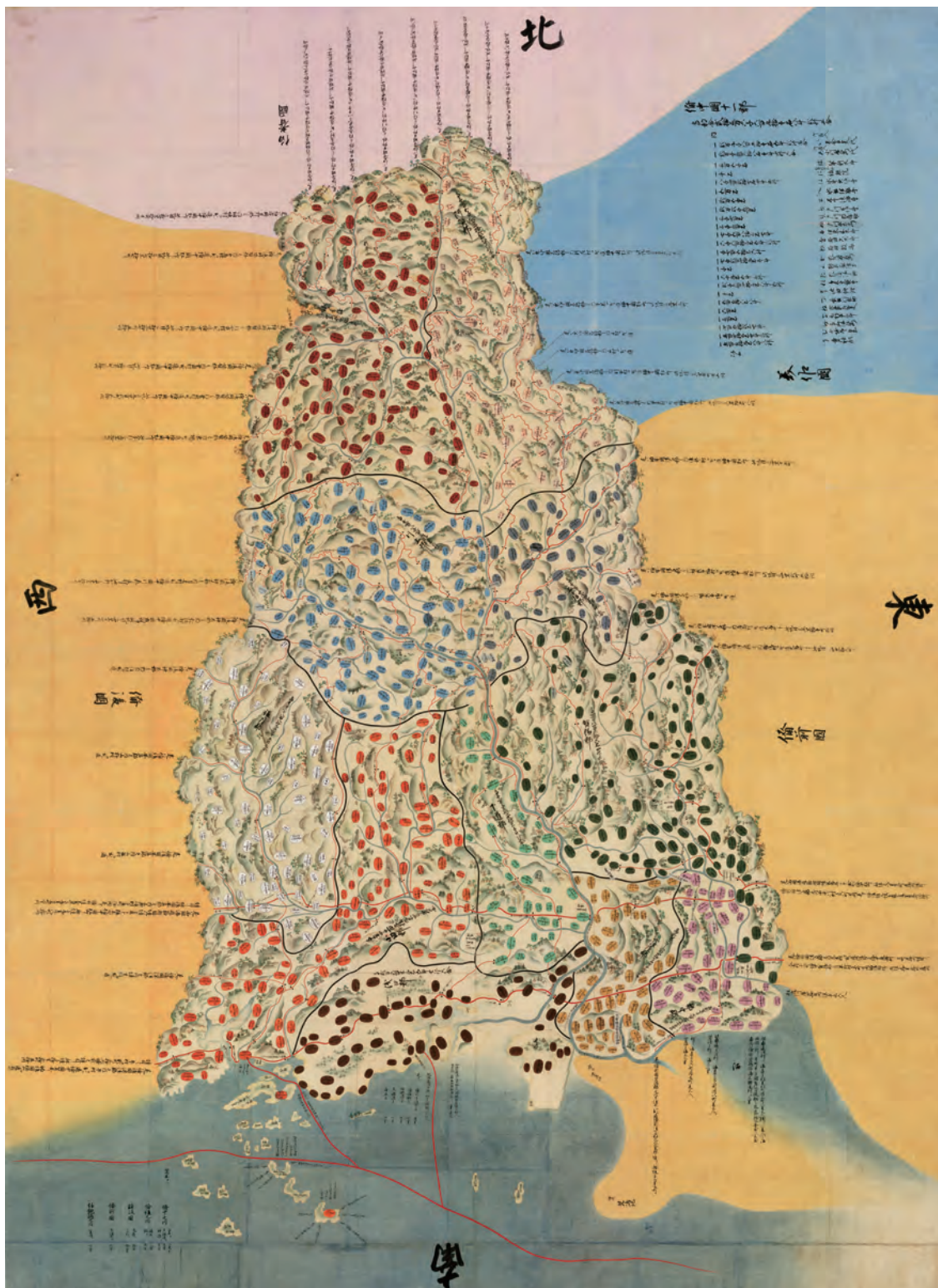
桐箱入り。備前国と備中国の2冊からなる。正保の国絵図に記された交通情報をまとめて書き上げ、提出されたもの。交通路の掌握は軍事的な意味が強く、正保度のみこの帳面の作成が命じられた。「灘道」は海岸沿いの道のこと。



参考8 びつちゅうのくにえず 備中国絵図【複製】

T1-32 1 鋪
〔正保2年(1645)カ〕
356.0 × 260.0

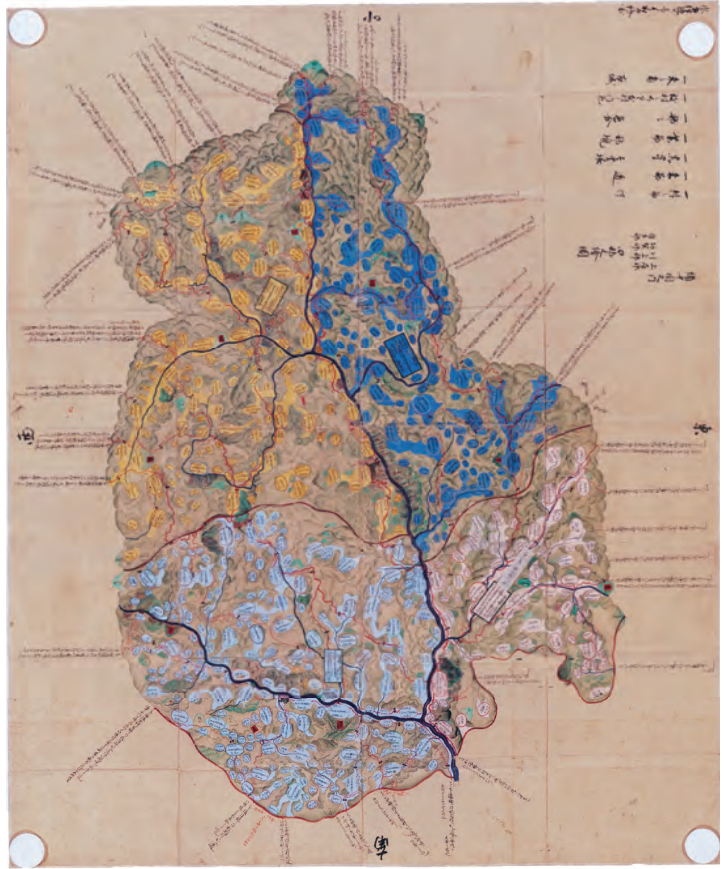
岡山藩が作成して幕府に提出した正保の備中国絵図の控図。幕府から指示された仕様に則って作成されている。右上の罫紙部分に国内に領地を持つ領主の名前と知行高が記され、領主には「いろは」記号が付けられている。図中の村形の中には、村名・村高とともに、領主名がこの「いろは」記号で書き込まれている。



15 備中国之内上房郡川上郡阿賀郡哲多郡四郡之絵図

T1-34 1 鋪
〔正保2年(1645)カ〕
209.2 × 173.0

端裏だいせん題簽に「水谷伊勢守殿より参四郡之絵図 上房・阿賀・哲多・川上」とあり、畠紙部分なされそうろうに光政とおほしき字で「水谷伊勢守殿みずのやかつたかより被成候絵図」と書き込まれている。備中国絵図制作のために備中松山藩主水谷勝隆が光政に提出した備中国北部4郡の絵図。凡例には「一紺之筋 川／一朱筋 道／一黒星 壱里塚／一紫筋 郡境／一郡々 色分／一枝村 之くゝり本村と同色／一朱之角 古城」とある。国絵図には反映されない郡境の小書きも細かく記されている。



16 つうぐんのず 都宇郡之図

T2-92 1 鋪
〔正保2年(1645)カ〕
65.1 × 53.5

端裏に「戸川土佐殿ら参都宇郡之絵図」とあり、畠紙部分なされそうろうには光政とおほしき字で「戸川土佐守殿被成候絵図」と書き込まれている。備中国絵図制作のために庭瀬藩主戸川正安まさやすが光政に提出した都宇郡の絵図。郡境の小書きはないが、道が窪屋郡に抜ける箇所には窪屋郡側の村名と方位が記されている。山は緑青をたっぷり使い山容の違いが分かるように描かれていて、この図の美しさを引き立てている。

17 かやぐんえず
加陽郡絵図

T2-93 1 鋪
〔正保2年(1645)カ〕
121.8 × 121.3

端裏に「木下淡路殿より参加陽郡絵図」とあり、鬮紙部分には光政とおほしき字で「木下淡路守殿被成候絵図」と書き込まれている。備中国絵図制作のために足守藩主木下利当が光政に提出した賀陽郡の絵図。また端裏には「木下淡路殿が下絵図」と書いた貼紙もある。村ごとの領主名・石高に関する記載がないのは下図であるためだろう。他方、国境の小書きは国絵図よりも多く、岩・滝・古城・寺社などの絵画表現も豊富である。



18 しもつみちぐんのえず
下道郡之絵図

T2-94 1 鋪
正保2年(1645)6月
111.4 × 72.4

端裏に「伊東甚太郎殿より参下道郡之絵図」とあり、鬮紙には「備中国十一郡之内下道郡之絵図／正保貳年乙酉六月吉日／伊東甚太郎内千石久馬之助」と書き込まれている。川辺村に陣屋を置いていた1万3000石の大名伊東甚太郎が作成した下道郡の絵図。鬮紙の領知目録に続けて、凡例が「ろくせうは山／こんせうハ川／くろき筋郡境／朱引ハ道／かき色ハ芝山／うすろくせうハ松山／朱の角ハ伊東甚太郎領知／黄の角ハ水谷伊勢守殿御領知／あさき角ハ松平新太郎殿御領知」と記されている。郡境は目印になる建物などとともに墨線ではっきり引かれている。

参考9 びぜんのくにえず 備前国絵図【部分・複製】

T1-18 1 鋪
〔正保2年(1645)カ〕



(南を上方にして掲載)

正保2年(1645)に幕府に提出された備前国絵図の控図から、見島下津井周辺を部分的に表示している。航路・海上里程・湊の様子など、海上交通に関する情報の豊富な事が分かる。下津井沖の島々には島名とともに所属が明記されている。

参考10 びぜんのくにきゆうぐんえず 備前国九郡絵図【部分・複製】

T1-14 1 鋪
〔寛永15年(1638)カ〕

参考5の備前国九郡絵図のうち、見島下津井周辺を部分的に表示している。朱線で航路は示されるが、島はまったく描かれていない。



(南を上方にして掲載)

19 ほうれつこうてどめ
芳烈公手留

A1-1 1冊
年月日未詳
27.0 × 19.7

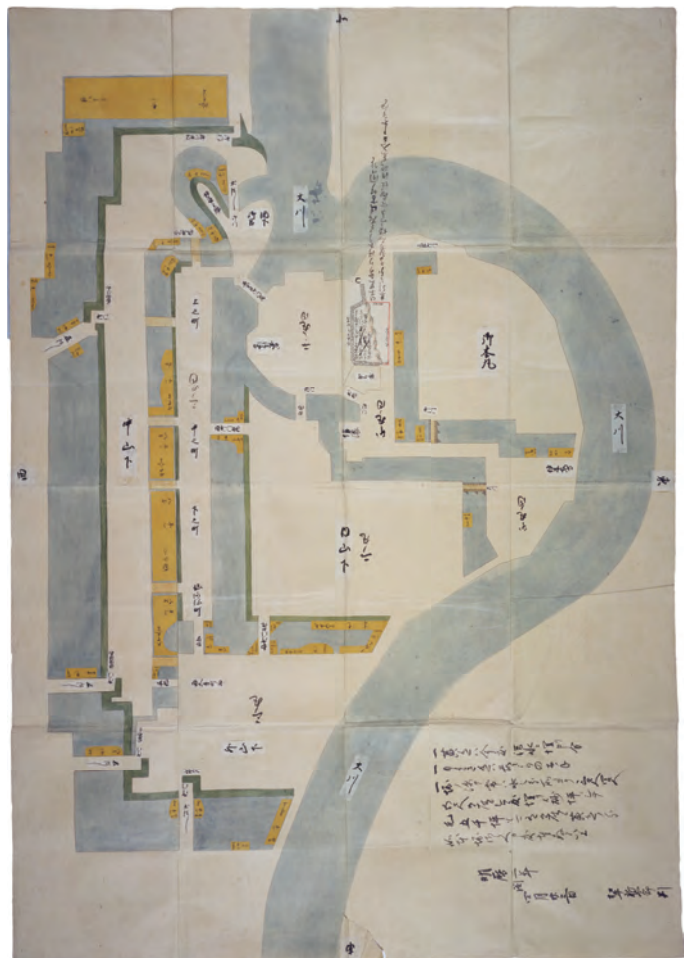
いわゆる「池田光政日記」（林原美術館所蔵）の写本。5冊が^{たとう}畳紙に入れられている。畳紙には「芳烈公御手留 五冊」と書いた貼紙があり、「御留方」と書かれている。5冊を包む包紙には「御秘書 五冊」と記されている。1冊目の正保3年(1646)8月14日の項に、光政に当てた小堀^{とおとうみ}遠江守政一^{まさかず}の書状が写されている。



20 びぜんのくにおかやまじょうほりさらえのねがいえず
備前国岡山城堀浚之願絵図

T7-84 1鋪
明暦2年(1656)閏4月23日
136.3 × 95.2

端裏^{だいせん}題^{だい}籤^{せん}に「岡山城郭之図 明暦二年閏四月廿三日御届之扣^{ひかえ}」とある。甌紙部分の書込によれば、黄色の部分^{らいつし}が承応3年(1654)の洪水によって埋まった部分。深さは3~5尺、坪数は5000坪もあるという。松平新太郎(光政)がその浚えを幕府に願い出たときの絵図の控え。



まつだいらしんたろうあてろうじゅうれんしよほうしよ
21 松平新太郎宛老中連署奉書

T7-157-4 1通
明暦2年(1656) 閏4月25日
40.6 × 56.6

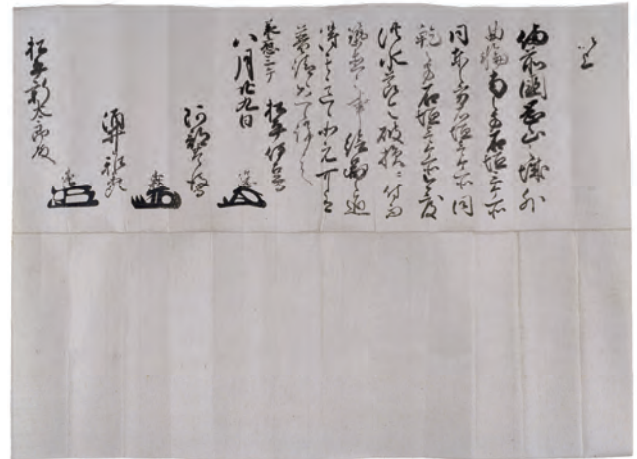
差出人は松平伊豆守信綱・阿部豊後守忠秋・酒井雅楽頭忠清、宛名は松平新太郎(池田光政)。閏4月23日に光政が願い出た堀浚えについて許可した老中奉書(將軍の意を奉じて老中が伝える書状)。



まつだいらしんたろうあてろうじゅうれんしよほうしよ
22 松平新太郎宛老中連署奉書

T7-157-3-1 1通
承応3年(1654) 8月29日
40.6 × 56.4

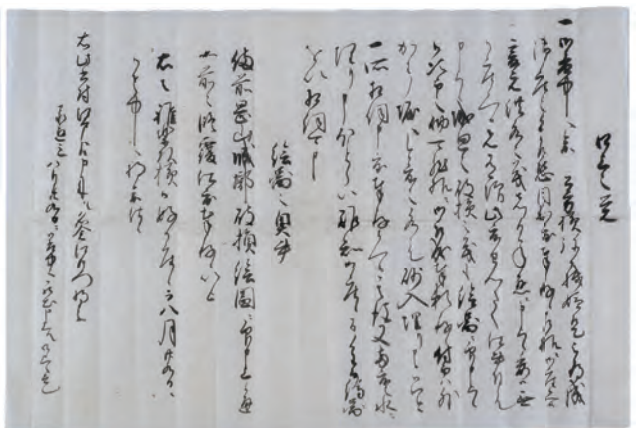
差出人は松平伊豆守信綱・阿部豊後守忠秋・酒井雅楽頭忠清、宛名は松平新太郎(池田光政)。承応3年7月19日の洪水で破損した石垣の築き直しを願い出たのに対して、元のように修復することを許可した老中奉書。3重の包紙に包まれている。関連した絵図はいまのところ見当たらない。



こうじょうのおぼえ
23 口上之覚

T7-157-3-2 1通
承応3年(1654) 8月29日
28.0 × 42.2

光政の使者として江戸へ遣わされた名倉郷左衛門が、老中へ洪水の様子を伝え、城修復願を提出した際の口上覚。22の奉書と同じ包紙に包まれている。



II Source data description

24 おいさめばこのかきつけ 御諫箱之書付

E5-63-1～6 6冊
承応3年～寛文6年（1654～66）
14.2 × 42.2 他



承応3年の洪水後に光政は、自分の政治に対する家中や領民の意見を聞くために「諫箱」という投書箱を設けた。光政はそのすべてに目を通し、みずから覚書を作った。それがこの6冊の書付である。まさに「働く藩主」の面目躍如といった史料である。



25 こうじょう もうしきけおぼえ 口上にて申聞覚

E2-170 1通
承応3年（1654）10月24日～承応4年（1655）正月4日
28.3 × 645.7

洪水からの復興に努力していた10月24日から翌年の正月4日までに、光政が家臣や諸役人に対して行った説諭の内容をみずから記しておいた書付を、後に継ぎ合わせて一本にしたもの。そのほとんどは、「光政日記」にも留められている。当時は飢人が増加しており、光政は家臣を集めて民政の心構えについてたびたび説諭していた。

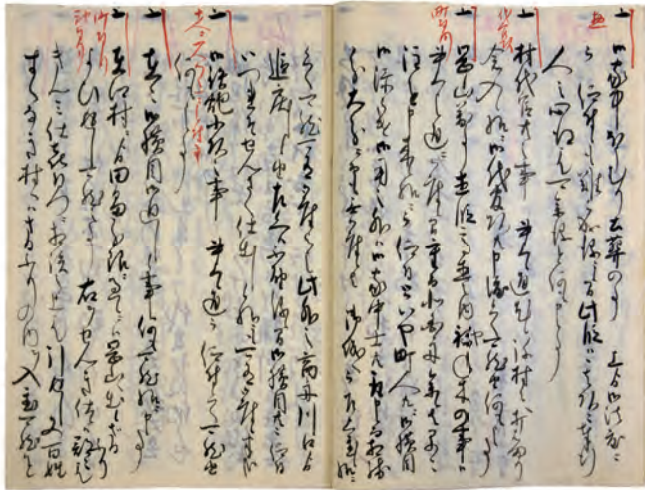


26 こおりぶぎょうだいかん もうしきけこうじょうおぼえ 郡奉行代官へ申聞口上覚

E2-169 1通
万治元年（1658）12月4日
28.4 × 175.8

民政の心構えや重点について、光政が郡奉行・代官に直接に説諭した内容を記した、自筆の書付。「光政日記」によれば、仕置家老・近習の面々・大小姓・小小姓も列席させ、申し聞かせている。その後、1年間の苦労をねぎらって、奉行・代官に料理を振る舞った。「日記」では、この口上の内容は「別紙ニ在之」とあって記されていない。この史料がその「別紙」にあたるか。





27 おおよりあいのかきつけ
大寄合之書付

E2-163-6 1冊
〔寛文6年(1666)〕
29.0 × 20.9

寛文6年に最後の「改革」を始めるにあたり、光政は家老をはじめ奉行・横目など諸役人を集めて、当面する藩政の課題について審議させた。これは「大寄合」と呼ばれ、同年8月16日から28日まで行われた。その評議の内容を記録した光政自筆の帳面が3冊残されている。そのうちの1冊には、評議の結果に対する光政の指示が朱筆で加えられている。「大寄合」の結果は最終的に32か条の法令にまとめられ、9月7日に領内に触れられた。

28 いわなしぐんず
岩生郡図

T2-75 1鋪
寛文元年(1661)5月18日
226.0 × 117.7

畚紙に「(緑) 此色山 / (青) 此色川池 / (黄) 堤 / (紺) 藪 / (朱) 道 / (橙) 沼 / (茶) 川原 / (白) 城」という凡例が記されている。その横に「岩生郡 / 地高式万六千百八拾六石五斗五合 / 直高三万六千式百四拾壹石六合」と記されているが、朱印高とは違い地高も直高も藩内のみで通用する石高である。畚紙部分に11か村についての重要人物などについての情報を記した書付が貼られている。



29 上東郡図

じょうとうぐんず

T2-77 1 鋪
〔万治4年(1661)カ〕
193.0 × 114.9

端裏に「上東」とあり、^{らいし}畠紙部分には「上東郡
絵図」と書き、その横に郡の概況が箇条書きに
記されている。郡内の道筋や用水の描写はとく
に詳しい。畠紙には「御用も可調者」として9
人が書き上げられている。この部分の文字は、
図中や畠紙部分の他の文字とは異なっていて、
郡奉行からの情報提供にもとづいて光政自身が
書き付けたもののように見える。



30 和気郡図

わけぐんず

T2-86 1 鋪
万治4年(1661)4月21日
178.8 × 142.1

端裏に「和気」とあり、^{らいし}畠紙には「和気郡
／直高三万三千百八拾五石貳升五合／高貳
万六千五百三拾七石七斗貳升壹合／村数九
拾、外ニ枝村拾六」とある。畠紙に郡支配に
必要な人物の情報を記した書付が貼られてい
る。



31 こじまぐんず
児島郡図

T2-90 1 鋪
万治4年(1661) 5月12日
94.4 × 218.8

端裏に「児嶋」とあり、^{らいし}罫紙端には「万治四 児嶋 石川善右衛門」とある。罫紙をはみ出すように貼られた書付は、端裏に「児嶋人書付」と書かれており、末尾には「万治四年五月十二日 石川善右衛門(花押)」と署名されている。後筆で「十」「廿」「卅」「合卅一人」と書かれた文字は本文とは異筆であり、端裏の文字と同じで光政の筆と思われる。



32 ふくろ あかさかぐんずいり
袋 (赤坂郡図入)

T2-76 1 枚
年月日未詳
32.2 × 37.4

表に「赤坂郡絵図」と記した貼紙があり、横に光政とおほしき字で「児嶋人書付此内ニ有」と書かれている。「児嶋人書付」は31 児島郡図に貼られている。この袋は幅2.8cmのマチがある特殊なもので、現在は赤坂郡図だけが入れているが、まだ1、2枚は入りそうな余裕がある。袋の裏には、万治4年当時の11名の郡奉行の名前が記されている。



番号	資料名	整理番号	員数	年代	法量(h×w,cm)
1	鳥取城図	T3-268	1枚	文化7年(1810)	82.4×80.2
参考1	因幡国鳥取絵図	T3-3	1枚	元和5年(1619)9月6日	136.0×165.0
2	松平新太郎宛松平宮内書状	C9-38	1通	年未詳4月9日	37.0×52.7
参考2	松平新太郎宛年寄衆連署奉書	C9-52-1	1通	〔元和5年(1619)〕9月16日	40.5×57.6
参考3	岡山古図	T6-5	1舗	〔寛永9年(1632)〕	515.4×309.0
参考4	〔備前国岡山城下図〕			慶安年間	
3	備前国岡山城下図(川西・北)	T6-11	1舗	慶安年間(1648-52)	79.6×68.6
4	備前国岡山城下図(川西・中)	T6-10	1舗	慶安年間	84.6×102.1
5	備前国岡山城下図(川西・南)	T6-9	1舗	慶安年間	82.4×72.2
6	備前国岡山城下図(川東)	T6-8	1舗	慶安年間	94.7×65.0
7	島原戦地之図	T12-39	1枚	年月日未詳	155.8×159.2
8	肥前島原戦地之図	T12-37	1枚	年月日未詳	84.0×85.2
9	肥前島原戦地之図	T12-40	1枚	年月日未詳	111.4×117.6
10	池田家履歴・六	A8-57	1冊	年月日未詳	23.5×16.2
11	備前国九郡絵図	T1-16	1枚	〔寛永15年(1638)カ〕	188.8×188.6
参考5	備前国九郡絵図	T1-14	1舗	〔寛永15年(1638)カ〕	193.4×188.5
参考6	備中国絵図	T1-30	1舗	〔寛永15年(1638)カ〕	190.0×189.2
参考7	備前国岡山城絵図	T3-84	1舗	〔正保2年(1645)〕	242.4×196.7
12	備前国九郡之帳	B3-35	2冊	〔正保3年(1646)〕	30.4×22.5
13	備中国十一郡帳	B3-34	2冊	〔正保3年(1646)〕	30.4×22.5
14	備前備中道筋并灘道船路記	N1-98	2冊	正保4年(1647)11月	31.2×23.6
参考8	備中国絵図	T1-32	1舗	〔正保2年(1645)カ〕	356.0×260.0
15	備中国之内上房郡川上郡阿賀郡哲多郡四郡之絵図	T1-34	1舗	〔正保2年(1645)カ〕	209.2×173.0
16	都宇郡之図	T2-92	1舗	〔正保2年(1645)カ〕	65.1×53.5
17	加陽郡絵図	T2-93	1舗	〔正保2年(1645)カ〕	121.8×121.3
18	下道郡之絵図	T2-94	1舗	正保2年(1645)6月	111.4×72.4
参考9	備前国絵図〔部分〕	T1-18	1舗	〔正保2年(1645)カ〕	
参考10	備前国九郡絵図〔部分〕	T1-14	1舗	〔寛永15年(1638)カ〕	
19	芳烈公手留	A1-1	1冊	年月日未詳	27.0×19.7
20	備前国岡山城堀浚之願絵図	T7-84	1舗	明暦2年(1656)閏4月23日	136.3×95.2
21	松平新太郎宛老中連署奉書	T7-157-4	1通	明暦2年(1656)閏4月25日	40.6×56.6
22	松平新太郎宛老中連署奉書	T7-157-3-1	1通	承応3年(1654)8月29日	40.6×56.4
23	口上之覚	T7-157-3-2	1通	承応3年(1654)8月29日	28.0×42.2
24	御諫箱之書付	E5-63-1~6	6冊	承応3年~寛文6年(1654~66)	14.2×42.2他
25	口上にて申聞覚	E2-170	1通	承応3年(1654)10月24日~ 承応4年(1655)正月4日	28.3×645.7
26	郡奉行代官へ申聞口上覚	E2-169	1通	万治元年(1658)12月4日	28.4×175.8
27	大寄合之書付	E2-163-6	1冊	〔寛文6年(1666)8月〕	29.0×20.9
28	岩生郡図	T2-75	1舗	寛文元年(1661)5月18日	226.0×117.7
29	上東郡図	T2-77	1舗	〔万治4年(1661)カ〕	193.0×114.9
30	和気郡図	T2-86	1舗	万治4年(1661)4月21日	178.8×142.1
31	児島郡図	T2-90	1舗	万治4年(1661)5月12日	94.4×218.8
32	袋	T2-76	1枚	年月日未詳	32.2×37.4

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム

記念講演会・パネルディスカッション

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井讓治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院准教授 三宅正浩	2017年11月12日

年度	パネルディスカッション	パネラー・司会	期日
平成23	国絵図復活	東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 [司会] 東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

平成 29 年度企画展 池田家文庫絵図展 池田光政と絵図

発行日／平成 29 年 11 月 3 日

主 催／岡山大学附属図書館 岡山シティミュージアム

発 行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印 刷／株式会社プリント・ケイ

岡山大学学都基金

「地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する」

学都基金は、平成20年4月に設置しました「岡山大学21夢基金」を再構築する形で生まれ変わり、平成27年4月から募金を開始しております。

本学では、教育・研究活動を通して社会に貢献できるよう、様々な取組、事業等を行っておりますが、一方で国からの運営費交付金は毎年削減され、財源の多様化、自己収入増加を図るよう求められております。そのため、この学都基金を有効に活用し、本学の教育・研究をなお一層力強く推進し、これまで以上に地域・社会に貢献できるように努力しております。

つきましては、卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、イノベーション創出、学都創成・グローバル化の推進を目的とした、岡山大学学都基金についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(単位：円)

平成29年度事業計画

事業テーマ別	区分	事業内容	支出予定額
教育活動支援事業	グローバル人材育成事業支援		
	・一般留学生受入・派遣	学部生、院生の支援（奨学金、留学支援）	12,000,000
	・グローバル人材育成特別コース	学部生の支援（奨学金等）	4,500,000
イノベーション創出支援事業	イノベーション拠点創出事業支援	・その他の支援プログラム	750,000
		学部生、院生の支援（奨学金、長期インターンシップ（Co-opプログラム）等開発・実施経費）	1,500,000
研究活動支援事業	地域創生拠点事業支援	イノベーション拠点創出事業支援（若手研究者の支援、イノベーション拠点海外派遣等）	750,000
一般事業	世界のトップ大学との交流に係る経費	農業に関するビジネスモデル構築の研究支援	750,000
	その他新規事業支援等	留学生支援事業（L-café）、学都基金募金事業	1,500,000
合 計			21,750,000

寄付金の申込方法

右記連絡先に、住所・氏名をご連絡ください。折り返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。

インターネットからの申込も可能です。学都基金の詳細については、ホームページをご覧ください。

税制上の優遇措置についても記載しております。（寄付金控除の対象となります。）

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>

岡山大学学都基金

検索

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局（総務・企画部総務課）

〒700-8530

岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-251-7009 電話受付：9:00-17:00（土・日・祝日除く）

Fax. 086-251-7294

E-mail kikin@adm.okayama-u.ac.jp





池田家文庫資料叢書

A5版 / クロス装・ケース付

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。



新刊

平成29年2月刊行

池田家文庫資料叢書3

「御留帳評定書」 上巻

岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表 倉地克直)

本文605頁、解説19頁

19,440円 (税込)

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録したもの。時期は、池田光政治世末期の寛文八年(一六六八)から池田綱政時代前期の貞享二年(一六八五)まで。

当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料である。

*続刊予定(中巻・下巻)

【目次】

池田家文庫資料叢書3の刊行にあたって / 目次 / 細目次 / 凡例 / 付図 / 解説 / 御評定書 寛文八年 / 御評定書 寛文十年 / 御留帳評定書 延宝元年 / 御留帳評定書 延宝貳年 / 御留帳評定書 延宝三年



池田家文庫資料叢書2

好評既刊

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表 倉地克直)

【上巻】本文598頁、解説22頁 10,800円 (税込)

【下巻】本文749頁、解説25頁 12,000円 (税込)

池田家文庫資料叢書1

「御留帳御船手」

上・下巻

岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表 倉地克直)

【上巻】本文627頁、解説9頁

【下巻】本文717頁 各7,560円 (税込)

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料「池田家文庫」の絵はがきです



8枚入り
309円 (税込)



8枚入り
309円
(税込)

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせ下さい。

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |

検索

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>

メールでのご注文はこちらへ→okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp